

## 第92回 川崎医学会講演会抄録

平成 14 年 9 月 24 日

### 赤芽球造血におけるマクロファージの役割

病理学 定 平 吉 都

造血細胞の増殖と分化、移動と局在は造血組織の間質細胞や細胞外マトリックスによって形成される造血微小環境によって制御されていることが知られている。間質細胞には血管内皮細胞、線維芽細胞様細胞、脂肪細胞、マクロファージなどがあり、これらの細胞はサイトカインを分泌することによって、あるいはまた造血細胞との接着を介して造血をコントロールすると考えられる。本講演では、(1)造血組織のレジデントマクロファージを単球や造血組織以外のマクロファージから区別する免疫組織学的マーカーとしての Forssman 糖脂質、(2) Chlodornate 封入 liposome 投与によるマクロファージ消失にともなう赤芽球造血の抑制、(3)赤芽球とマクロファージの接着複合体である赤芽球島形成に関与する接着因子としての VLA-4/VCAM-1 の 3 つのわれわれの行った研究を紹介し、脱血したマウスにおいて脾臓で赤芽球造血が著明に亢進するのは、脾臓において特殊に分化したマクロファージ (Forssman 糖脂質陽性マクロファージ) が、効率よく赤芽球造血が起こるような造血微小環境を提供していることを示した。

### 造血障害について—貧血から白血病まで

検査診断学 通 山 薫

骨髄は骨の中の狭小な間隙に存在するが、足し合わせると巨大な造血組織である。ここで毎日膨大な数の血液細胞が産生されて体中を巡り、生体の恒常性を維持している。この骨髄に異常があって血液細胞を末梢へ十分に供給できない病態を造血障害または骨髄障害と呼ぶ。再生不良性貧血や骨髄異形成症候群 (不応性貧血, MDS) が代表的な疾患である。いずれも重篤な骨髄機能不全をきたすが、とくに後者はしばしば白血病へ移行するので、血球減少をきたす造血障害と白血病という悪性腫瘍は実は紙一重ということになる。

自覚症状がない場合、異常所見を真っ先に見つけるのは臨床検査の現場に携わる人達である。とりわけ末梢血中にあってはならない白血病細胞を見つけたときなどは、まさに白血病の第一発見者になったことになる。

造血障害は往々にして難病であるが、造血幹細胞移植をはじめとする医学・医療の進歩はこれらの疾病の克服を目指すものである。個々の症例について早期発見が肝要であり、それは臨床検査の現場に課せられている。